ふれあいの森総合公園

公園通信2024年夏号

グリーンカーテンを設置しました！

今年も熱中症緩和対策として遊具広場前に常設テントと、グリーンカーテンの設置を実施しました。今年は、ゴーヤとミニトマトを植えています。成長が楽しみですね♪

▼グリーンカーテンとは・・・？

アサガオやゴーヤなどのつる性植物を利用した緑のカーテンは、花や緑を楽しみながら取り組める夏の熱中症対策のひとつです。植物の蒸散により、周囲の気温を下げ、体感温度が低くなる効果が期待できます。さらに、日射の熱エネルギーの約８０％をカットする遮熱効果があると言われており、すだれの遮蔽率が５０～６０％と言われているため、いかにグリーンカーテンが優れているかが分かります。植物の新鮮な酸素を感じることで気分をさわやかにする効果もあります♪グリーンカーテンは家庭でも気軽に取り組むことができる省エネ、熱中症対策です。みなさんもはじめてみてはいかがでしょうか？

危険な生きものにご注意を！

マダニ

▶「マダニ」は、春から秋にかけて活動が活発になり、シカやイノシシなどの野生動物が生息する環境のほか、民家の裏山や庭、畑などにも生息しており、屋外でのハイキングや農作業、草刈り時はダニに咬まれるリスクが高まります。公園においても生息している可能性がありますので、注意が必要です。

マダニに咬まれると重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）や日本紅斑熱などに感染してしまう可能性があります。ＳＦＴＳは、マダニに咬まれてから6日～2週間程度の潜伏期間の後，３８度以上の発熱や，消化器症状（食欲低下，嘔気，嘔吐，下痢，腹痛）などの症状がでます。重症化する方もいます。

感染を予防するためには、①長袖、長ズボンを着用し、肌の露出を少なくすること、②マダニ用の虫よけスプレーを活用すること、③屋外活動後はシャワーや入浴時にマダニに刺されていないかを確認すること、が重要です。

セアカゴケグモ

▶「セアカゴケグモ」は、特定外来生物に指定されており、咬まれた際の症状としては、咬まれた瞬間に針で刺されたような痛みを感じ、その後、３０分から４０分して、鈍い痛み、熱感、赤み、腫れ、発疹、発汗（傷口周辺）が現われることがあります。

重症化することはまれですが、３０分から２時間で、激しい筋肉痛（胸痛、腹痛）、けいれん、吐き気、血圧上昇、呼吸困難等が現れることがあり、特に、小児や高齢者が咬まれた場合は、注意が必要です。このような症状が現れた場合は、できるだけ早く、救急病院で受診してください。回復には個人差があり、数時間～数日、場合によっては数週間～数か月かかることもあります。

セアカゴケグモに咬まれないために、①発見しても絶対に素手で触らないでください。②衣服の上から咬まれる可能性は低いため野外で活動する場合は、長袖、長ズボン等、素肌が隠れる服装を心がけてください。③野外に置きっぱなしのサンダル等を履く際に事故が多発しています。屋外で脱いだ履物を履く際は注意しましょう。

イベント開催のお知らせ

森の夜の星空観察会

自然豊かなひろーーいふれあいの森で輝く星たちを見てみよう♪
家から観る星空とは何か違う・・。夜の開園はこの日だけ・・・。

★要事前申込（申込受付 2024 年 7 月上旬から開始予定）
日　　程：2024 年 8 月 6 日（火）雨天延期：8 月 9 日（金）
　　19：45 ～ 21：00（予定）
定　　員：先着 20 組まで
料　　金：￥100/ 名　※未就学児は無料

夏のスプラッシュ広場（仮）開催予定★

今年は夏の熱中症対策として園内の一部分でスプリンクラーの稼働を予定しています♪
回転するスプリンクラーで水遊びをして、少しでも涼を感じていただければと思います。
詳細が決まり次第、ホームページや公式インスタグラム等で告知予定です。お楽しみに♪

▼夏のスプラッシュ広場（仮）
開催期間：2024年7月下旬～8月下旬まで開催予定。

真夏の遊具高温やけどに注意！

▶暑さが年々厳しくなっていますが、真夏になると連日３０度以上、または３５度以上の猛暑日になることもめずらしくありません。公園の遊具や駐車場はうっかり触れないほどの高温となることもあります。
公園で遊ぶ際には熱中症だけではなく、火傷にも気を付ける必要があります。滑り台やブランコ、砂利が敷いてある公園の地面など、いずれも表面温度が６０～７０℃となっている場合もあるのです。
子どもは大人に比べて皮膚が薄く、体表面積も小さいので火傷が重症化しやすいという特徴があります。猛暑によって屋外にあるさまざまなものが凶器に変わる場合があります。子どもが外で遊ぶときは、素手や手足で熱くなっているものを触らないように言い聞かせて、遊びに付き添うようにしましょう。
もしも、火傷をしてしまった際の応急処置のポイントは、とにかく冷やすことです。水道が近くにあれば、火傷した部分の熱が冷めるまで水道水で冷やしましょう。氷があれば、ビニール袋に入れて氷のうを作り、患部を冷やしましょう。水ぶくれができるような火傷の際は速やかに皮膚科を受診しましょう。

▶公園公式ホームページと Instagram にて随時情報発信中！
ぜひチェック＆フォローをお願いします♪

▶次回は公園通信秋号でお会いしましょう